

(御船) 高等学校 平成 2 5 年度学校評価表

1 学校教育目標	
(1) 社会規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立	(5) 健康・安全教育の徹底と学習環境整備の推進
(2) 確かな学力の育成	(6) 部活動の活性化と地域に根ざした学校行事の推進
(3) 個性を伸ばす進路指導とキャリア教育の充実	(7) 地域に信頼される特色ある学校づくり
(4) 心の教育の充実	

2 本年度の重点目標	
(1) 社会規範意識の醸成と豊かな情操・道徳心の育成 ア 生徒会活動の活性化による「あいさつ、服装、時間の管理、交通マナー」の向上等、主体的に自己改革に取り組む態度の育成に努める。 イ 他者への思いやりの心や人権を尊重する心を育むなど、心の教育の充実に努めるとともに、特に、学級における仲間づくりに配慮した教育活動を推進する。	
(2) キャリア教育の充実と高い目標の進路実現を図る指導体制の確立 ア 三年間を見据えた系統的進路指導体制の確立と、年間を通して計画的・継続的な指導を推進する。 イ 習熟度別指導や個別指導等による個に応じた指導の工夫・改善を進め、学習習慣の確立を図り進路・適性等に応じた能力の向上と技術を身に付けさせる。 ウ 進路研究、進路講演会、インターンシップ等の充実を図り、主体的に進路を選択、決定できる能力や勤労観・職業観をはぐむキャリア教育を推進する。	
(3) 全人教育としての部活動の振興	

3-1 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	共有と協働	一体感のある教育活動の取組	課題の共有による全職員の協働意識の喚起と実働	H P、保護者会、育友会便りを通じ学校目標の周知	A	学校評価のアンケート結果から、8割を越える保護者が本校教育方針に理解を示されている。また、本校に入学させて良かったとの回答は9割を超えた。引き続き徹底した周知を図っていききたい。 職員・生徒により、セミナーハウスを快適に利用するための清掃活動を行った。今後も、セミナーハウスの施設美化、研修の積極的な活用と有用感向上に努めていく。 防災訓練では、生徒の防災意識の低さが感じられる。防災意識向上のための教育・指導の徹底と、地震対策への計画の見直しを進めていく。 育友会総会の参加は8割を超えたが、保護者や地域の方が学校行事へや公開授業の参観が少なかった。保護者や地域が、積極的に学校へ来校いただく企画の工夫改善を行い、さらに地域に根ざした教育を目指していくことが課題である。
			校務運営の円滑化・効率化	学校行事並びにセミナーハウス活用の工夫と改善 職員間の事前協議の徹底 防災教育の徹底	B	
	地域連携と広報活動の推進	地域に信頼され、愛される学校	御船町や町内各種団体、近隣小中大学との連携の充実	保護者や中学校、地域住民に授業公開と行事等への積極的参加	B	
			募集定員を上回る受検生の確保	中学校への広報活動の工夫と充実	A	6月の中学校訪問や11月の学校説明会では、ロボットの实演や生徒のスピーチを取り入れ、積極的に学校案内を行った。 また、7月の中学校体験入学の他に、御船中学校生徒の体験入学は、これまでの3年生だけでなく、今年度から2年生にも実施し、地元密着型の本校独自の取り組みを行った。

3-2 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	教師の授業力の向上	教科指導法研究と指導力の向上(分かりやすい授業の実践)	研究授業を各教科年2回以上実施	校内・校外に対する授業の公開と改善	B	6月と11月に実施した研究授業では、授業法について教科内で協議を行い成果が上がった。特に教育センターからのカリキュラムサポートを受けた授業研究会では、指導主事の指導を受け、今後の授業作りに大きく役立った。
	個々の学力の向上	家庭学習習慣の確立	毎日継続した家庭学習時間が昨年度を上回る	学習課題の工夫と宅習時間調査を活用した個別指導	B	調査前に、生徒一人一人が計画的な学習をするために、学習計画を立てさせ、調査後に達成度を測るための宅習時間調査を実施した。結果、生徒は自発的・自主的な勉強につながった。ただ、年度途中でデータ管理に不具合が生じ、昨年度との比較ができないのが残念である。
		規律ある授業の維持	落ち着いた態度での授業への集中	3秒礼の徹底とこまめなノートチェック	A	生徒指導部や教科担任の取組みにより、落ち着いた雰囲気の中で授業が出来ている。
	個別指導の充実	継続的な個別指導の実施と学校をあげての協力	進路意識の向上と個々人の学力に応じた指導	生徒の動機付けと個々の生徒に応じた指導内容の工夫	A	各教科による指導・小論文指導・検定対策など、職員の細やかな個別指導により個別指導は充実し、生徒個々の学力向上につながった。生徒や保護者のアンケートで、本校教員の熱意の平均は3.46*と高かった。
進路指導	就職指導の充実	ライフプランを明確に描き、適性にあった職業に就くこと	就職内定率100%とミスマッチの解消 生徒の希望に合う求人開拓	ライフプラン講座の受講や職業講話の実施 キャリアサポーターとの連携による求人開拓、県内外の企業訪問	B	就職希望の生徒が多い電子機械科の1学年を対象に「ライフプラン講座」、2学年を対象に「就職ガイダンス」、3学年には企業経営者などを招いての「模擬面接会」を開催し、就職へ向けて意識の向上を図った。キャリアサポーターは県内100カ所以上の事業所を訪問し、求人開拓へとつなげた。県外の企業訪問を実施し、訪問した企業へ内定する確率は高かった。
	進学指導の充実	生徒・保護者の多様な進路希望に応えること	第一志望校への合格率95%以上	3学年団と進路指導部との連携強化や、きめ細やかな面談により、生徒の進路希望を把握し、実現のための情報を提供	B	生徒の進路希望、大学・専門学校について、進路指導部と担任が情報を共有して進学指導にあたった。また二者面談・三者面談をし、生徒・保護者の進路希望をきめ細やかに把握するとともに、生徒への情報提供・助言を行った。結果、第一志望校への合格率は92%であった。来年度は100%を目指したい。
			国公立大学進学者10人以上	個別指導、面接指導、小論文指導を早期から行い、充実を図る	B	芸術コースから筑波大学、電子機械科から宮崎大学など、各科の特性を活かした進学指導は功を奏した。一方で、模試等の結果から進路目標を変更する生徒も多く、国公立大の進学者数については5名となり、目標を達成できなかった。
	キャリア教育の推進	生徒が自分を知ること、仕事を知ること、表現できること	3年間を見据えた本校独自のキャリア教育プランの作成	本校のキャリア教育の内容を総括するとともに、先進校訪問等により他校の優れた実践等を取り入れる。地域社会の協力を仰ぎ、インターンシップやキャリア発達を促す講話等の充実を図る	A	インターンシップについては、今年度初めて普通科・電子機械科とも2学年全生徒が参加したが、生徒のアンケートで「有意義感78.9%」となり、評価は高いものとなった。3年間を見据えたキャリアプランの作成では、基礎学力の充実への取組と併せて、来年度も継続して取り組む必要がある。本年度、文部科学省の「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」の研究指定校に立候補したが、指定を受けることができなかった。本校の取組として来年度も継続して希望したい。
生徒指導	生活指導と交通指導の徹底	規範意識の向上と交通安全規範意識の向上	挨拶の励行	朝の挨拶運動の定例化、定期調査前の3秒礼定着週間として実施	B	各学期に2回、生徒会と育友会を中心にあいさつ運動を実施。成果として生徒の公共心や社会性を身につける機会となり、生徒の規範意識の醸成となる取組みができた。調査前の3秒礼週間はできている。
			遅刻・服装頭髪指導の徹底	頭髪服装検査の実施と各学年、生徒指導部による事後指導の徹底 毎月遅刻生徒への奉仕活動を通じた指導	A	本年度は7月から月1回服装検査指導を行った。結果、2学期は再検査を受ける生徒が減少した。しかし、長期休業後の検査では不合格者が多く今後の課題である。遅刻指導では、毎月2回遅刻者の統計を取り、遅刻者へ粘り強く、きめ細かい指導を行うことで、遅刻者は徐々に減少した。
			交通違反件数及び交通事故件数の減少	交通講話や免許取得生徒の交通安全運転実技講習会の実施	B	各学期に講習会や講話を実施したが事故18件・違反26件数で昨年度より多くなった。また、毎月3回の2重ロック・ハンドルロック点検を徹底して行い、結果、実施率100%を達成できた。

3-3 自己評価総括表							
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
人権教育の推進	推進体制の機能強化と研修の充実	教育効果を高めるための有効な実践方法の検討	人権教育LHR事前研修会を職員研修と位置付け年3回実施	人権教育LHRの指導内容を検討する事前研修の充実	B	人権教育LHRの内容を部内で検討し、それをもとに、各学年で事前研修を行い、全員が共通理解のもと、LHRを実施した。 また、人権講演会では、本年度水俣病語り部の方を講師として招聘し、水俣病をめぐる人権について、生徒、職員で水俣病の悲惨さや、いわれない差別について学習した。	
	すべての教育活動を通じた取組の強化	自他の人権を尊重する意識と態度の育成	いじめ発生時の迅速な対応と継続的ないじめの件数0件を目指す	生徒実態アンケートを年2回行い、その結果や担任からの情報を共有し、具体的な手立てを進める	B	5月と12月に生徒実態調査を行い、いじめの早期発見に努め、いじめを受けた生徒へ迅速に対応した結果、いじめの継続件数は減少した。 また、職員会議や研修の中で、職員に情報提供し、共通理解を図るとともに、3月に「御船高校いじめ防止基本方針」を策定した。	
	学校、家庭、地域社会における取組の充実	学校生活に安心・安全に適應できるような援助	生徒の現状把握と課題をもった生徒への支援体制の整備	学校の現状把握と課題をもった生徒への支援体制の整備	学校、家庭、地域連携の強化のための家庭訪問や二者面談の充実及びスクールカウンセラーの積極的な活用	B	担任や学年主任をはじめ多くの職員が関わりながら、個別の面談や家庭訪問を実施した。スクールカウンセラーには、臨機応変に対応していたが、成果は高いものがあった。しかしながら、深刻な悩みを抱えた生徒の支援においては、保護者側の理解や協力という点で課題が残った。
	命を大切にすることを育む指導	かけがえのない自他の生命を尊重する心の育成	各教科等における心に響く多様な指導の展開	各教科等における生命尊重の指導場面の明確化と実践	各教科等における生命尊重の指導場面の明確化と実践、職員間で生命尊重の指導実践の共有化と授業研究	B	「命を大切にすることを育む指導」を育む指導プログラムの作成を学校全体で取り組み、実践した。職員が共通理解を図り、各教科等で「命を大切にすることを育むことができる単元等」を洗い出し、指導ユニットを作成して実践したが、さらに授業研究等で心に響く指導につなげる必要がある。
環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己健康管理意識の高揚	食事・睡眠・排泄など基本的な生活習慣の確立	専門家による各種講演会等の実施	B	性教育、薬物乱用防止、歯科、食育の講演会は計画通り実施した。性教育講演会では、育友会総会時に実施し、保護者にも聴講してもらうことができた。食育の講演会では内容をより明確にし講師選定を実施する。保健だよりの発行、保健室来室時の個別指導も適切に実施し、今後も生徒の健康管理意識の高揚を図っていく。	
	環境整備の徹底	身の回りの清潔、整理整頓への意識の高揚	掃除の徹底とごみの分別の徹底	掃除用具の整備と掃除時間の確保	C	今年度は掃除の時間に予鈴を設け、掃除開始を明確にしたが、掃除の徹底という点では課題が残った。掃除指導の在り方も含め、来年度検討が必要である。飲料水の水質、空気、照度、換気等の検査を実施し、異常のあった空気（ホルムアルデヒド）とダニの検査に関しては、適正な数値になるよう対処した。	
図書	読書指導の徹底	教室を美化するなど読書環境を整備する	朝の読書指導の徹底	教育活動全般において、全教職員による読書指導を徹底する	B	朝読書や月1回の集団読書（1・2年）は定着した。文化祭では、生徒の読書変革を促すよう、教職員による推薦本の紹介を、図書委員会の企画の一つとして実施した。 課題は、考査前後の読書の取組みについての指導が挙げられる。	
	図書館利用の活性化	貸出数の増加	一人あたりの年間貸出数を昨年度（13.9冊）を上回る	蔵書に関する広報活動の充実	B	貸出数増加に対する対策は、「図書館だより」「図書委員会だより」の広報活動を中心に行った。今後は生徒のニーズに合わせ、内容の充実を図りたい。校内の掲示や展示等についても、学校行事などに合わせ、美観や趣向を考慮しながら行う。	
情報管理	ネットワーク全般の運用、管理	公務用PCの保守と電子データの管理	PCトラブルへの迅速な対応	対応職員の情報交換や複数での対応	C	本年度新たにサーバーを購入し、バックアップ体制を構築し、これまでのデータを移管しているところである。 また、重要データについては県管轄の文書セキュアシステムへの移行を職員に促しているが、徹底までには至っていない。	
	学校ホームページの運営	行事等の最新情報発信	充実したホームページの制作と頻繁な更新	各行事担当者へ呼びかけ情報収集	B	ホームページを学校CMSというブログ形式のシステムへ移行することで、複数の職員が更新に関わることができるようになった。 ホームページの更新もより頻繁に実施し、アクセス数は2月12日現在で3万2千を越えている。今後、更新の制度化と役割分担の明確化を進めたい。	

4 学校関係者評価

学校評価計画や学校評価結果（自己評価結果）についての内容は、平均値が3.60*で概ね適切であるとの評価をいただいた。また、教育活動や学校運営、職員の姿勢などについて良い評価をいただいているものの、改善するための具体的な意見として、○服装頭髪指導の内容の見直しや開示、○職員の自己評価は自信を持って評価すること、○生徒へのアンケートの実施、○服装頭髪指導における公正・厳正な指導と保護者の協力、○保護者参加型の校内美化作業の実施、○部活動の振興、○体育祭（スポーツ祭）の改善、○中学校学校説明会でのPR戦略、○保護者と学校の協働による生徒の健全育成などがあげられる。

※：アンケートによる質問事項において4段階評価（4 そう思う 3 まあまあそう思う 2 あまりそう思わない 1 全く思わない）の平均値。

5 総合評価

本校の綱領「誠実・自学・自律」の精神の涵養を図ることを教育目標の根底に全職員で共有と協働のもと取り組んできた。

保護者や地域等の学校関係者評価では、上記の課題をいただいたが、保護者の「本校の教育活動その他の学校運営に向けた取組は適切である。」という評価は3.40*、また、生徒からの「授業に対する先生の熱意を感じる。」については3.46*となり、概ね良好な評価が得られた。

学校評議員からは、生徒や保護者、教職員の学校評価のアンケート結果をもとに御審議いただいたが、「本校は保護者からの提案を受け入れ、よりよい学校づくりに努めている。」という項目では、3.70*と高い評価をいただいた。

今後は、改善すべき課題を見直し、生徒並びに保護者に対して今以上に満足していただける取組みを進め、地域などからの信頼度さらに高めていきたい。

※：アンケートによる質問事項において4段階評価（4 そう思う 3 まあまあそう思う 2 あまりそう思わない 1 全く思わない）の平均値。

6 平成26年度への課題・改善方策

改善すべき事項として、上記(学校関係者評価)で出された課題はもとより、生徒の学習意欲の高揚と家庭学習の習慣化、部活動の活性化、本校生としての誇りの高揚などがあげられる。これらは、関係分掌部を中心に、具体的な改善提案を出し、全職員で改善へ結びつけ指導に効果が上がるよう取り組んでいきたい。

また、本校の特色をこれまで以上に深化、発展させるとともに、地域との連携、育友会や同窓会との連携をさらに強め、地域からの信頼をさらに高めていきたい。